

兵 医 広 報

2023
SUMMER
vol.262

建学の精神
社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解

西宮キャンパス

兵庫医科大学(医学部)
兵庫医科大学病院
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
☎0798-45-6111(代)
https://www.hyo-med.ac.jp/(大学)
https://www.hosp.hyo-med.ac.jp/(病院)

神戸キャンパス

兵庫医科大学 (薬学部・看護学部・リハビリテーション学部)
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6
☎078-304-3000(代)
https://www.hyo-med.ac.jp/

篠山キャンパス

兵庫医科大学
ささやま医療センター
〒669-2321 兵庫県丹波篠山市黒岡5番地
☎079-552-1181(代)
https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/
兵庫医科大学
ささやま老人保健施設
兵庫医科大学
ささやま居宅サービスセンター
〒669-2321 兵庫県丹波篠山市黒岡36番地
☎079-552-6840(代)
https://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/

梅田キャンパス

兵庫医科大学
梅田健康医学クリニック
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-13-1 大阪梅田ツインタワーズ・サウス13F
☎0120-682-701(代)
https://umeda-kenshin-clinic.jp/

< 広報誌の送付先変更や配送停止に関するお問合せ >

【兵庫医科大学 医学部 卒業生(緑樹会会員)の方】
兵庫医科大学 医学部 同窓会緑樹会
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
兵庫医科大学 西宮キャンパス 教育研究棟 3階
☎0798-45-6448 (平日13:00~17:00)
✉ryokuju@hyo-med.ac.jp

【兵庫医療大学 卒業生(海泉会会員)の方】
兵庫医科大学 キャリアデザインセンター
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6
兵庫医科大学 神戸キャンパス M棟 1階
☎078-304-3100 (平日8:30~17:00)
✉careerdesign@hyo-med.ac.jp

【その他の方】
学校法人 兵庫医科大学 総務部 広報課
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
☎0798-45-6655
✉kouchou@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 医学部 保護者の方】
兵庫医科大学 大学事務部 西宮教学課
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
兵庫医科大学 西宮キャンパス 教育研究棟 2階
☎0798-45-6159 (平日8:30~16:45)
✉kyo-gaku@hyo-med.ac.jp

【兵庫医科大学 薬学部・看護学部・リハビリテーション学部 保護者の方】
兵庫医科大学 大学事務部 学生支援課
〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6
兵庫医科大学 神戸キャンパス P棟 1階
☎078-304-3007 (平日8:30~17:00)
✉gakuseishien@ml.hyo-med.ac.jp

学校法人 兵庫医科大学 広報誌
兵医広報 vol.262 (2023 SUMMER)
発行日/2023年8月18日
発行元/学校法人兵庫医科大学 総務部 広報課



兵庫医大が目指す

ダイバーシティ

兵庫医科大学は、第4次中期事業計画を2023年4月にスタートさせました。第4次中期事業計画は兵庫医科大学が「未来を切り拓く教育・研究・診療の創造に挑戦し、広く社会に貢献する医系総合大学」を目指しています。この実現には多様な人材が能力や特性を十分に発揮でき、新たな価値を生み出すことができる環境と組織風土が不可欠です。その確立に重要なキーワードとなる「ダイバーシティ」の取り組みを紹介します。

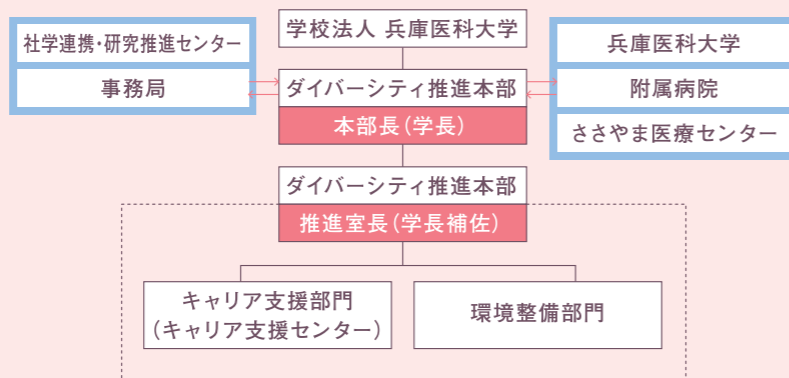
ダイバーシティの推進体制

学校法人兵庫医科大学のダイバーシティ推進体制

2020年4月に学長主導のもとダイバーシティ推進本部を設置し、新たなフェーズに向けたビジョンとアクションプランを制定しました。また、その実行組織としてダイバーシティ推進室を設置し、「キャリア支援」と「環境整備」を軸とした活動を行っています。

そのなかで、女性医師・研究者の自律的・継続的なキャリア形成のための取り組みが、令和2年度 文部科学省 科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特性対応型)」に採択されました。

この事業の中核組織として、2021年4月にはキャリア支援センターを設置し活動しています。



ダイバーシティのビジョンとアクションプラン

ビジョン	違いを活かして、 新たな価値を生み出せる教育・研究・就業環境および組織風土 を確立します。
アクションプラン	①多様な人材の活躍を実現するための働き方改革の推進 ②女性の上位職への登用促進 ③ダイバーシティ環境の実現に向けた教職員の意識改革
数値目標	①医師における女性の教授比率15%を達成 ②事務職員における女性管理職比率20%を達成 ③男性の育児休業取得率5%を達成

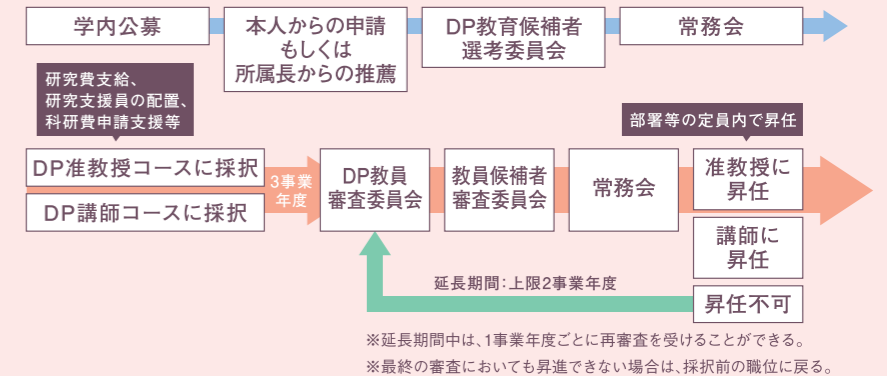
ダイバーシティプロジェクト教員制度

ダイバーシティプロジェクト教員制度の制定について

医学部では、女子学生が増加傾向にあるにもかかわらず、ロールモデルとなる女性教員の管理職が少ない傾向にあります。そこで今年度より新たに「ダイバーシティプロジェクト(DP)教員制度」を制定しました。教育・研究・診療のいずれかの領域で特筆すべき業績があり、将来活躍が期待される優秀な女性教員を対象とし、積極的なキャリアアップをサポートすることで、医学部における女性教員のさらなる躍進を目指します。

ダイバーシティプロジェクト教員制度とは

医学部に所属する女性教員のうち、規定の資格を満たす者について、一定期間、研究費の支給等をはじめとしたサポートを行い、期間終了後の審査において上位職への昇任を目指すことができる制度です。




2023年度 DP教員制度採択者が決定


制度が制定されてから初めてとなる2023年度のDP教員制度の公募が2023年4~5月で行われ、選考委員による書類審査や面接審査の結果、准教授コース1名、講師コース3名の計4名が採択され、2023年7月1日に採択式が開催されました。2023~25年度の3事業年度間、支援が受けられます。




採択者

 **准教授コース(臨床准教授) 小児科学**
李 知子 Comment


この度、ダイバーシティプロジェクト教員を拝命いたしました。大変光栄であるとともに責任の重さに身の引き締まる思いです。近年女性医師の数は増えているものの、キャリアを継続していくことは未だ容易ではありません。女性医師が活躍し続けることは女性だけでなく男性医師も含めた組織全体にとって重要と考えます。様々な立場の医師が希望を持って活躍できるよう、微力ながら尽力していく所存です。

 **講師コース(臨床講師) 病理学病理診断部門**
木原 多佳子 Comment

「多様性」という意味をもつダイバーシティですが、働き方改革を進める上で欠かすことのできない考え方です。多様な人材を確保し、新しい価値・発想を取り込むことで、環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、法人の成長と個人の幸せにつなげることができます。少子高齢化やグローバル化が進む時代において、今後も法人のダイバーシティへの取り組みはより重要性が増していくと考えられます。DP教員として、「創発」を生み出すことのできる学びの場を提供していきたいと思っています。

 **講師コース(臨床講師) 糖尿病内分泌・免疫内科学**
角谷 美樹 Comment

これまで診療、教育に加え、睡眠・自律神経と糖代謝異常の関連や副腎疾患の研究を続けてきましたが、これらを形にして発表できるよう今後一層精進していきたいです。またこれを機に、様々な環境の中で頑張っている後輩達とも情報を共有し、ライフワークバランスを考えた働き方を模索していけたらと思います。

 **講師コース(教育講師) 病原微生物学**
孫 安生 Comment

この度はありがとうございます。現在、各臨床科の先生方と細菌叢解析について共同研究を進めておりますが、腸内環境を制御するメカニズムを解明し"microbiome-based medicine"を目指します。また、将来学生達が医師や研究者として活躍できるように、様々なDP制度の充実に貢献したいと思っています。

ダイバーシティ推進室の取り組み

兵庫医科大学が目指すダイバーシティの実現に向け、実際に行っている取り組みの一部をご紹介します。

ダイバーシティ研究環境整備

Point

1. 令和2年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特性対応型)」に採択

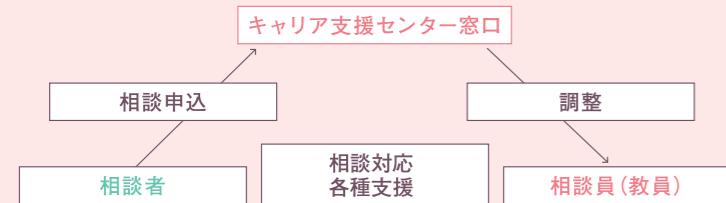


女性医師や研究者が、その能力とは別の要因でキャリアを断念せざるを得ない状況を打開し、キャリアアップを望む女性が生き生きと活躍できる環境を目指していくための環境整備と支援を実施します。優秀でモチベーションの高い女性がさらに活躍できる組織を目指します。

Point

2. キャリア支援センター

2021年4月1日にキャリア支援センターを開設しました。当センターでは、特に女性医師・研究者の研究能力の向上と継続的・自律的なキャリア形成を目的として、様々な支援策を展開しています。



Point

3. 研究支援員の配置

2021年度より「研究支援員配置制度」を開始しました。ライフイベントによる研究中断からの復職者やライフイベント等の両立により研究時間の確保が困難な医師や研究者を対象に、「研究支援者」を配置することができる制度です。研究支援者は研究活動に必要なデータ入力・データ整理や文書作成等の補助業務を主に行います。2023年度からはDP教員を中心とした支援を実施しており、さらなる当制度の拡大を目指しています。

ライフイベント支援

Point

1. 病児保育室ゆりかご

急な発熱やケガなどで一般の保育施設で預ることができないお子さんを、保護者の方に代わって看病・保育するための施設です。兵庫医科大学病院の医師・看護師と連携し、本学の教職員や学生が安心して、育児と仕事・勉学を両立できるよう支援します。

Point

2. 保育園ポラール「兵庫武庫川園」

附属病院に勤務する医師・看護師をはじめとした教職員を対象に隣接する定型保育園である、都市型保育園ポラール「兵庫武庫川園」に専用枠を設けています。



女性医師・研究者の研究力向上や活躍促進

学内研究費助成制度

本学研究者の研究能力の向上をはかり、さらに優れた研究成果の創出を目指し、学内研究費助成制度の一環として、次世代を担う優秀な女性研究者の研究力向上とキャリアアップ、また、ライフイベント等による休職・離職者(性別問わず)の研究活動への復帰を目的とした助成を実施しています。

キャリア応援研究費助成	リーダーシップ向上研究費助成	スタートアップ研究費助成
次世代を担う優秀な女性研究者の研究力向上とキャリアアップを目指す	リーダーとして活躍する女性研究者のさらなる躍進を目指す	ライフイベント等による休職・離職者の研究活動への復帰(性別問わず)
2023年度より、主に若手女性を対象とした「女性研究者研究費助成」に名称を変更	2023年度よりDP教員制度に移行	2023年度より「リスタートアップ研究費助成」に名称を変更

()内、応募者数	キャリア応援	リーダーシップ向上	スタートアップ
2021年度	5件(8件)	2件(4件)	3件(4件)
2022年度	4件(6件)	2件(4件)	1件(1件)

研究成果報告会

助成制度採択者を対象に、毎年「研究成果報告会」を実施しています。

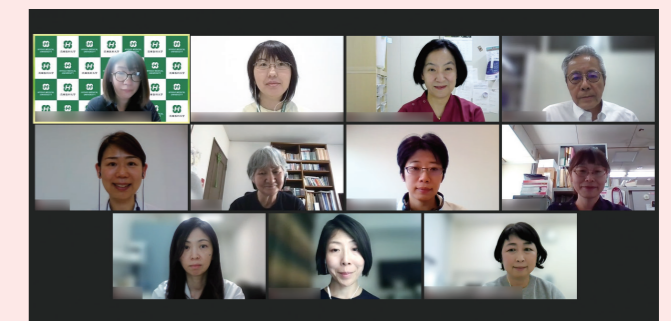
報告会では、研究の進捗や成果の発表をはじめ、今後のキャリアや本学のダイバーシティ推進活動に関する意見や提案を出し合うなど、女性医師・研究者の交流の場としても活用しています。

これまで交流のなかった研究者同士の出会いや、新たな知識の醸成にも役立っています。

2021年度、2022年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オンラインでの開催となりましたが、次回は会場で直接顔を合わせ、活発な交流が図れるよう計画しています。



2021年度 報告会



2022年度 報告会

女性医師・研究者顕彰

この顕彰は、教育・研究・診療において、優れた業績を挙げた女性医師・研究者、熱意をもって研究に取り組む若手、またダイバーシティ環境実現への取り組みを顕彰、研究意欲のさらなる向上や将来を担う優秀な人材の育成につながることを目的とし、2021年度より実施しています。

トップリーダー部門	女性研究者学術部門
業績や能力が優れているだけでなく、本学におけるリーダーとして活躍し、本学の発展に貢献することが期待できる方を顕彰します。	特に学術上優れた研究成果を挙げ、さらに、成長意欲や貢献意欲を有している方を顕彰します。



中山 真美



佐伯 彩乃

2022年度の女性医師・研究者顕彰授賞式では、表彰に続き、学術部門優秀賞・中山 真美 准教授、ロールモデル賞・高雄由美子 教授による受賞者代表スピーチ、最後に鈴木 敬一郎 副学長(現・学長)より講評と、受賞者一人ひとりへの激励の言葉がありました。この日は国際女性デーの前日ということで、シンボルであるミモザをポスターや会場垂幕にあしらい、和やかな雰囲気の授賞式となりました。

2022年度採択者

トップリーダー部門	
ロールモデル賞	ペインクリニック部 教授 高雄 由美子
次世代リーダー賞	医学教育学／整形外科学 講師 柏 薫里 呼吸器・血液内科学 助教 吉原 享子
女性研究者学術部門	
優秀賞	地域総合医療学 准教授 中山 真美
若手未来賞	麻酔科・疼痛制御科 病院助手 佐伯 彩乃 臨床疫学 博士研究員 西村 理恵

科研費申請書類作成支援

キャリア支援センターでは、業績が一定の要件を満たしており、科研費を継続的に申請しているが採択に至っていない女性医師・研究者を対象として、科研費申請書類の作成支援を行っています。

2021年度には 8名、2022年度には5名の支援を行いました。採択には至らなかったものの、被支援者の半数程度の評価結果が向上しました。

本学医学部は新入生女性比率がほぼ50%で、神戸キャンパス3学部は50%を超えています。女子学生や女性教職員が自律的に、そして継続的に活き活きと学修・研鑽し働けるようにキャリア支援と環境整備を行う必要があります。ダイバーシティ推進事業は、女性の活躍に限ったことではなく、組織全体の成長に繋がります。女性だけでなく、男性も含めて大学構成員ひとりひとりが自己の個性や能力に応じて目標を高く設定し、オリジナルな道を追求していきける組織を目指したいと思っています。そのため推進本部と「ダイバーシティ推進室」を設置し、令和2年度には文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特性対応型)」に採択されました。ここでは医学部女性教授比率15%など幹部教員の女性比率向上を目標に掲げており、今年度から新たなDP(ダイバーシティプロジェクト)教員制度を立ち上げました。新室長の高雄由美子教授(ダイバーシティ推進担当学長補佐)と若手教員も加えた新体制で、クラウドファンディングなど新しいチャレンジも致します。ご支援のほどお願い申し上げます。

ダイバーシティ推進本部長
兵庫医科大学 学長
鈴木 敬一郎



INTERVIEW

兵庫医科大学は多様性を大切にした風土づくりに取り組んでいます。



ダイバーシティ推進室長
兵庫医科大学
ダイバーシティ推進担当学長補佐
高雄 由美子

2023年4月よりダイバーシティ推進室長を拝命いたしました。ダイバーシティとは多様性のことですが、個人個人が性別や人種、信条などの差異で差別や区別をされず、優秀な人材や頑張っている人材に活躍の場を提供するのがわれわれのミッションです。
本学では2020年4月から「ダイバーシティ推進本部」が立ち上がり、素晴らしい活動に取り組んでいます。特に男女参画問題は、わが国においても解決すべき重要な課題です。ダイバーシティ推進室では女性医師・研究者の研究力向上のため、研究費助成制度や科研費申請書類作成支援をはじめ、英語論文投稿支援、女性医師・研究者顕彰制度などを行っています。また保育環境の整備や育児支援、相談窓口などキャリアを紡ぐお手伝いをしています。女性医師については、ライフイベントなどでキャリアを中断することなく、より高いところを目指して頑張れる環境作りを、また男女問わず、偏見を受けずに正当な評価を受ける土壌をしっかりと作ることがわれわれの責務です。推進室の活動や取り組んでいる支援について、皆様是非ご承知おきください。そして今後とも何卒ご協力ご支援お願いいたします。



兵庫医科大学ロールモデル集

Nanairo

性別もキャリアもライフスタイルも違う本学の教職員の生き方・働き方を紹介する冊子ができました。等身大のロールモデルとしてぜひご覧ください。また、右記QRコードからもご覧いただけます。

冊子版



動画版



OUR CREW

兵庫医科大学のUI(ユニバーシティアイデンティティ)で策定したスローガン

「EMPOWER THE PEOPLE～心に響く医を、私たちがいるかぎり～」を実践している兵医ファミリーを紹介。
今回は臨床と教育、両方の現場で学生の未来を応援する柏 薫里さんのエピソードを紹介します。

兵庫医科大学
医学部
医学教育学／整形外科学 講師

かしわ かをり

柏 薫里

整形外科医として地域医療や総合診療に携わり、臨床の現場で活躍。教育分野へ2022年にキャリアシフトし、臨床と教育の現場を行き来しながら医学生の未来について考え続けている。2022年度 兵庫医科大学 女性医師・研究者顕彰のトップリーダー部門 次世代リーダー賞を受賞。



EMPOWER THE PEOPLE BY

楽しく真剣に!

夢を見つけた学生が、ワクワクしながら未来をめがけて頑張れる環境をつくる

留学を通して様々な価値観に触れたことが教育の現場を志したきっかけに

尊敬する前教授・吉矢晋一先生のもとで学ぶ機会に恵まれて大学の教育現場へ。大学勤務講義や実習の機会が徐々に増えたことが教育に興味を持ったきっかけです。研究だけでなく、スポーツ整形外科で有名な施設への国内留学、米国留学にもチャレンジし、特に米国留学を通して、まったく違う価値観や経歴を持つ人々と出会ったことが、今後のキャリアで教育に重きを置いてみたいと思う転機となりました。また、この20年間で当校の国家試験の合格率を100%の水準に引き上げる教育環境をつくってきた先生方と一緒にできる経験も、ここからさらに充実した教育環境をつくっていくにはと自分に問いかけ続けるモチベーションとなっています。



局面も夢を叶えるために必要なプロセスだと意識することは、憧れの未来を引き寄せるモチベーションになるのではないのでしょうか。兵庫医科大学は教員数も多く、様々な価値観と知見に触れられる環境があります。迷った時や悩んだ時に相談できる体制も整えていますよ。

教育は世界を変える! 未来を切り拓く医療人を育てたい

学生に覚えていてほしいのは、夢物語のように思えることでも本気で語っていると応援してくれる人が現れるということと、チャンスにいつでも応えられるよう備えておくことです。チャンスは自分で作るものでもありますが、人がもたらしてくれるものでもあります。いつでもエイッと飛び込める心構えを持っておいてほしいですし、そういう体験をさせてあげられる環境を整えてあげるのが自分の役割だと感じます。

また、学生と接する際に、臨床の現場でも教育の現場でも「適切なタイミングで手をかけて育ててあげるには」ということを意識しています。臨床と教育の両方の視点を持つことで「教育にはこういう意味があるんだ」とカリキュラムの意図をより深く理解することができ、学生に還元できるものがあると思っています。興味を持った医師や教員が2つの現場をもっとフラットに行き来できる風土や環境づくりも必要ですね。様々な体験を通して、医療人としてステップアップした兵庫医大の学生がいつか社会を、世界を変える!そんな気持ちで、学生たちと日々向き合っています。なりたい自分になりましょう。



どんな時も楽しさを忘れずに! 学生が未来の自分にワクワクできる環境づくり

「この分野が面白い」「何かに挑戦したい」「やってみよう」と学生が興味を持った時に、何を提供できるかが教育に問われているのだと考えています。大学は知識を得る場であるだけでなく、夢を見つけた学生のモチベーションを支え、時には導いてあげられる場でありたいですね。一番もったいないと思うのは、目先の実習や試験がしんどくて、そこで諦めてしまうこと。医師になろうと思ったきっかけや入学した時の気持ちを時々振り返ったり、「10年後の自分はちょっといいかも」と未来の自分にワクワクしたり、しんどい

CONTENTS

- 01 特集 兵庫医大が目指すダイバーシティ
- 07 OUR CREW
～兵医メンバーのEMPOWER EPISODE～
夢を見つけた学生が、ワクワクしながら
未来をめがけて頑張れる環境をつくる
兵庫医科大学 医学部 医学教育学 講師 柏 薫里
- 10 NEWS & TOPICS
 - ・両キャンパスで課外活動団体による新入生歓迎会を実施
 - ・6月オープンキャンパスを開催
 - ・看護の日にちなみ約1,000名の看護師の“想い”をパネル展示
 - ・2023年度入学試験成績優秀者へ「新入生支援奨学金制度奨学生証」を授与
 - ・医学部卒業生による新種の魚類「ブナガヤボウズハゼ」の新しい生息地に関する発見が学術誌に掲載
 - ・「日本消化器病学会総会」でJournal of Gastroenterology High Citation Awardを受賞
 - ・本学薬学部生が日本薬学会第143年会学生優秀発表賞(ポスター発表の部)を受賞
 - ・「大腸がん肝転移に対する手術後の患者さんにおける無再発生存期間と術前全生存期間との相関」を明らかに
 - ・テデュグチドは「クローン病合併短腸症候群において早期の有効性を示す可能性があること」を明らかに
 - ・第31回手術手技研究会で「指定研究賞」を受賞
 - ・心筋細胞に現れるキナーゼを活性化する「新しい心不全治療薬」を開発
 - ・「第31回日本医学会総会」で日本医学会総会奨励賞を受賞
 - ・アジアで初めて大規模な疫学調査を実施「親の唾液接触」と「アレルギー疾患との発症リスク」の関連性を明らかに
 - ・当院医師と臨床検査技師が国際NGO活動としてトルコ・シリア地震緊急支援に派遣
 - ・石川県能登地方を中心とした地震による被災者支援のため当院薬剤師と臨床検査技師が派遣
 - ・2023年度 地震・津波防災訓練を実施
 - ・丸山前看護部長が兵庫県看護協会会長に就任
 - ・女子サッカー「第8回 AHF ジュニア アジアカップ」U21女子ジュニア日本代表に本学教員がフィジオとして帯同
 - ・医療科学研究科の名称変更のお知らせ
 - ・薬学部で予防接種(筋肉内注射)を体験する実習を実施
 - ・「ダイバーシティプロジェクト教員制度」の採択式を実施
 - ・公開講座「薬の使い方-基礎編-」
 - ・第4次中期事業計画 教職員向け説明会を開催
 - ・2023年度 幹部教員FDを開催
 - ・病院の運営方針説明会を実施
- 17 HYO-i LAB 研究紹介
新たなウイルスにも効果が期待できる
ユニバーサルワクチン創出の鍵となる基礎研究
兵庫医科大学 医学部 病原微生物学
主任教授 石戸 聡、講師 小椋 英樹
- 法人からのお知らせ
- 19 財務の概要-2022年度決算について
- 21 表彰・受賞など
- 22 評議員の異動
- 開学50周年記念事業募金状況報告
- 23 学校法人 兵庫医科大学基金 兵医・萌えの会
状況報告／新病院棟建設だより
- 24 主な行事予定(8～10月)／
キャンパス通信 梅田キャンパス編
- 25 メディア実績(4～6月)



両キャンパスで 課外活動団体による 新入生歓迎会を実施

2023年度の新入生を対象に、西宮と神戸両キャンパスにおいて、課外活動団体による新入生歓迎会を開催しました。西宮キャンパスでは、4月9日に各クラブによるプレゼン形式の活動紹介、4月10日にはブース形式で個別説明会、4月16日から17日には部活動体験を実施しました。神戸キャンパスでは、4月5日に各クラブによる新入生歓迎のパフォーマンスを披露し、4月28日にはブース形式でクラブの個別説明を行いました。



看護の日にちなみ 約1,000名の看護師の “想い”をパネル展示

ナイチンゲールの誕生日である5月12日は「看護の日」とされています。看護の日にちなんだ記念行事として、2023年5月8～26日にかけて1号館と8号館をつなぐ3階渡り廊下において、本院に勤務する約1,000名の看護師たちが、自分たちが所属する病棟での日頃の活動や大切にしている“想い”を紹介する特製パネルを展示しました。



6月オープンキャンパス を開催

兵庫医科大学 神戸キャンパスにて、2023年6月10日・11日に来校型のオープンキャンパスを開催しました。本イベントでは2日間で約800名の方々に参加していただきました。

3学部合同で行った入試ガイダンス・入試対策企画では2024年度入試の説明と、昨年度の試験問題を用いた総合型選抜の対策企画などのプログラムを実施しました。



2023年度入学試験成績 優秀者へ「新入生支援 奨学金制度奨学生証」を授与

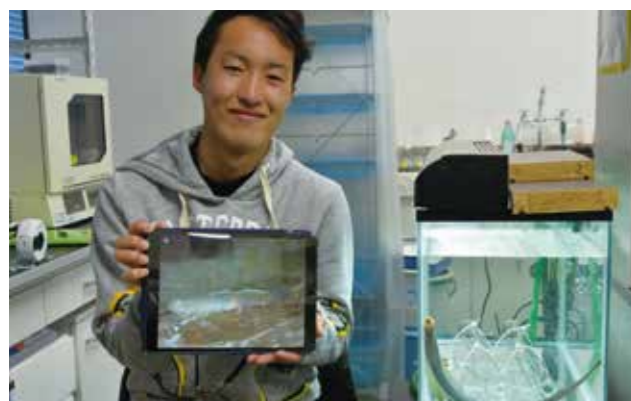
2023年5月22日、薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の「新入生支援奨学金制度奨学生証」の授与式を学長室にて執り行いました。新入生支援奨学金制度は、2023年度入学試験の一般選抜前期A日程(スタンダード型)において優秀な成績を取った方が対象で、兵庫医科大学に入学した奨学生2名に鈴木学長から奨学生証と記念品が授与されました。





医学部卒業生による新種の魚類「ブナガヤボウズハゼ」の新しい生息地に関する発見が学術誌に掲載

今年3月に医学部を卒業し、現在は臨床研修医として活躍されている清水晃太郎さんが投稿した報文が2023年5月23日、琉球大学が発行する学術誌『Fauna Ryukyuan』に掲載されました。2021年に台湾や沖縄本島で発見された新種である「ブナガヤボウズハゼ」を初めて石垣島で発見し、新たな生息地として認められたこととなります。



医学部卒業生 清水晃太郎さん



本学薬学部生が日本薬学会第143年会学生優秀発表賞(ポスター発表の部)を受賞

2023年3月に北海道大学で開催された「日本薬学会 第143年会」で薬学部6年生の青木理奈さんが『学生優秀発表賞(ポスター発表の部)』を受賞しました。「表面を疎水化処理したメソポーラスシリカ被覆酸化チタンの揮発性有機化合物に対する吸着特性」に関する発表について、熱意に溢れ分かりやすく且つ学術上注目すべき内容を有しており、将来の発展が期待されることが認められました。



薬学部6年生 青木理奈さん



「日本消化器病学会総会」でJournal of Gastroenterology High Citation Awardを受賞

2023年4月6～8日に長崎で開催された「第109回日本消化器病学会総会」で、医学部 消化器内科学(肝・胆・膵内科)准教授 榎本平之がJournal of Gastroenterology High Citation Awardを受賞しました。肝硬変の全国調査の結果、非ウイルス性肝硬変が増加している実態を明らかにした2020年3月「Journal of Gastroenterology」誌の掲載論文が同誌のImpact Factor値向上に貢献したとして表彰されたものです。



「大腸がん肝転移に対する手術後の患者さんにおける無再発生存期間と術前全生存期間との相関」を明らかに

兵庫医科大学 消化器外科学 主任教授 池田正孝らの研究グループは、大腸がんに対する根治手術を受けた患者のうち、がんが肝臓の外に転移していない患者の再発と生存の情報を全国規模の大腸癌肝転移データベースを用いて抽出し、無再発生存期間(RFS)と全生存期間(OS)の相関を算出した結果、RFSとOSの間に中程度の相関があることを明らかにしました。本研究成果は2023年5月17日に「British Journal of Surgery」に掲載されました。



テデュグルチドは「クローン病合併短腸症候群において早期の有効性を示す可能性があること」を明らかに

消化器内科学 主任教授 新崎信一郎らの研究グループは、2020年から21年にかけて、テデュグルチドが投与されたクローン病合併短腸症候群を対象とした後ろ向きコホート研究を行った結果、クローン病短腸症候群に対するテデュグルチドの短期間における有効性を示す可能性を明らかにしました。この研究成果は「Clinical Nutrition」誌に掲載されました。



第31回手術手技研究会で「指定研究賞」を受賞

胃癌手術の重大な合併症である膵液漏。その原因の一つである「膵臓の誤認」を防ぐため、AIによる画像認識技術を用いて正確に膵臓へ着色表示をし、膵液漏を減少させることを目指す研究に取り組んだことが評価され、2023年5月13日、消化器外科(上部消化管外科)助教 中村達郎が第31回手術手技研究会で「指定研究賞」を受賞しました。



「第31回日本医学会総会」で日本医学会総会奨励賞を受賞

医学部 病理学(分子病理部門)主任教授 大島健司は、大腸がんにおいてSerine racemaseという代謝酵素が、L-セリンからピルピレン産を産生し、がん細胞の増殖を促進することを明らかにし、またこの代謝酵素が治療標的となり得ることも示しました。これにより2023年4月23日、日本医学会から「第31回日本医学会総会奨励賞」が贈られました。



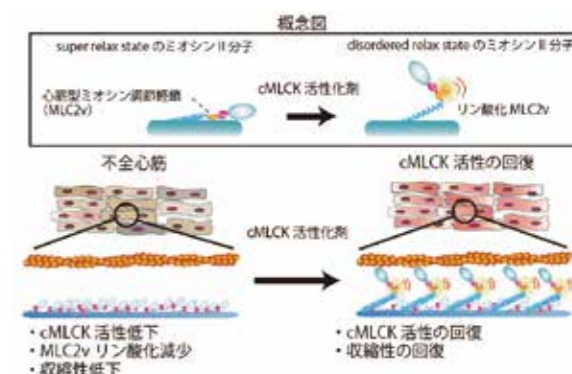
アジアで初めて大規模な疫学調査を実施「親の唾液接触」と「アレルギー疾患との発症リスク」の関連性を明らかに

皮膚科学 主任教授 金澤伸雄と和歌山県立医科大学、獨協医科大学、高槻赤十字病院の共同研究グループは、日本人の学齢期の子供とその親を対象にアジアで初めてとなる大規模調査を行い、乳児期の食器共有や、親の唾液によるおしゃぶりの洗浄を介した唾液接触と、アレルギー性鼻炎、食物アレルギー、喘息などのアレルギー疾患の発症リスク低下は関連性があることを明らかにしました。この成果は2023年4月10日に「Journal of Allergy and Clinical Immunology: Global」へ掲載されました。



心筋細胞に現れるキナーゼを活性化する「新しい心不全治療薬」を開発

生化学 主任教授 塚本蔵らの研究グループは、心筋細胞に特異的に発現するミオシン調節軽鎖キナーゼ(cMLCK)の活性低下により、ヒトの拡張型心筋症が発症するメカニズムを解明しました。また、大阪大学大学院医学系研究科医学講座、大阪大学大学院薬学研究科附属創薬センターとの共同研究により、cMLCKを特異的に活性化させる低分子化合物を開発し、これを心筋細胞に投与することで心筋の収縮性が回復することを明らかにしました。本研究成果は2023年5月2日に米国科学誌「Circulation」電子版に掲載されました。



当院医師と臨床検査技師が国際NGO活動としてトルコ・シリア地震緊急支援に派遣

2023年2月6日に発生したM7.8のトルコ・シリア地震被災者へ医療支援を提供するため、救命救急センター 山田太平医師と、臨床検査技術部 湊宏美臨床検査技師が「特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン」および「空飛ぶ捜索医療団ARROWS」の登録派遣隊員としてトルコへ派遣されました。「一秒でも早く、一人でも多く」の命を救うことを使命として活動し、傷病者・被災者や被災地域の医療従事者から大変感謝されました。





石川県能登地方を中心とした地震による被災者支援のため当院薬剤師と臨床検査技師が派遣

2023年5月5日に発生した石川県能登地方を中心としたM6.3の地震の被災者を支援するため、5月13～19日にかけて「特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン」と「空飛ぶ捜索医療団ARROWS」の登録派遣隊員として薬剤部 渡邊暁洋薬剤師と臨床検査技術部 湊宏美臨床検査技師が石川県珠洲市に派遣され、珠洲生活サポート部会の運営サポートや高齢者宅への戸別訪問、避難所巡回等を実施しました。



丸山前看護部長が兵庫県看護協会会長に就任

2023年3月まで6年間兵庫医科大学病院 看護部長を務めた丸山美津子氏が、2023年6月に開催された兵庫県看護協会総会・理事会で承認され、公益社団法人兵庫県看護協会会長に就任いたしました。丸山会長は兵庫県看護協会が令和2年度から掲げる「時空を超えて創造する、つなぐ・つながる看護」という将来ビジョンの実現に向けて、関係機関などと協働を進めていきたいと抱負を述べました。



女子ホッケー「第8回 AHF ジュニア アジアカップ」U21 女子ジュニア日本代表に本学教員がフィジオとして帯同

リハビリテーション学部の川口浩太郎教授が2023年6月2日から岐阜県各務原市で開催された「第8回 AHF ジュニア アジアカップ」に、ホッケーU21女子ジュニア日本代表のフィジオ(トレーナー)として帯同しました。女子ジュニア日本代表は2023年11月末からチリで開催される女子ホッケージュニアワールドカップへの出場権を獲得しました。川口教授は大会期間中、選手のコンディショニング、テーピング等を担当し、チームの勝利に貢献しました。



ホッケーU21女子ジュニア代表(後列左から5番目 川口教授)
写真提供:佐藤 茂樹氏



2023年度 地震・津波防災訓練を実施

2023年7月7日、神戸キャンパス3学部の1年生約360名を対象に、地震・津波防災訓練を実施しました。神戸市水上消防署の職員から危機管理講習を受講後、大型の海溝型地震発生から津波警報が発令されることを想定して実際の避難場所や避難経路の確認を行い、新入生たちの地震・津波に対する防災意識を高めました。訓練後は安否確認メールの送信と安否情報の登録を試験的に行いました。



医療科学研究科の名称変更のお知らせ

医療科学研究科は、疾病の予防や治療及び対象者の社会参加に至るまでのシームレスなリハビリテーション介入を研究対象としています。ステークホルダーに明確に研究領域がわかるように、2024年4月1日より、下記の通り研究科名および専攻名を変更いたします。

現在の名称 (2024年3月31日まで)	変更後の名称 (2024年4月1日以降)
医療科学研究科 (Graduate School of Health Science)	リハビリテーション科学研究科 (Graduate School of Rehabilitation Science)
医療科学専攻 (Course of Health Science)	リハビリテーション科学専攻 (Course of Rehabilitation Science)



薬学部で予防接種(筋肉内注射)を体験する実習を実施

2023年6月26日、薬学部4年次科目「新・実務実習事前学習II」の授業において、シミュレータを用いて予防接種(筋肉内注射)の体験実習を実施しました。コロナ禍においてワクチンの「打ち手」確保が課題となったことから、将来薬剤師がワクチン接種を担うことを想定し、正課の授業に組み込んだものです。参加した学生からは「このような授業は必要だと思いました」など前向きな意見がありました。





「ダイバーシティプロジェクト 教員制度」の採択式を 実施

2023年7月1日、今年度より新たに制定された「ダイバーシティプロジェクト教員制度」(詳細はp.2を参照)の採択者が決定し、その採択式が開催されました。准教授コースでは李智子(小児科学)の1名、講師コースでは木原多佳子(病理学 病理診断部門)、角谷美樹(糖尿病内分泌・免疫内科学)、孫安生(病原微生物学)の3名が採択されています。



公開講座 「薬の使い方ー基礎編ー」

2023年6月24日、兵庫医科大学神戸キャンパスで地域住民向け公開講座が開催されました。参加者から「応用編もぜひお願いします。」「薬の飲み方や順序などがなぜ決められているのか理由を知ることができ納得できました。」「目からうろこの話がいっぱいあり、今後役立てたい。」など大好評でした。



2023年度 幹部教員FDを開催

2023年6月17日から18日の2日間、大阪市住之江区のホテルクラシア大阪ベイにて2023年度幹部教員FDを開催し、各学部から22名の教員が参加しました。2014年度より年1回開催しているFDで、講師以上の役職にある教員を対象とし、法人の現状や経営方針などの知識を学ぶとともに、グループワークを通じて課題の共通認識を持つ機会となりました。



第4次中期事業計画 教職員向け説明会を開催

2023年4月より、2023~2027年度の5年間を対象とした第4次中期事業計画がはじまりました。本法人の教職員が現状を理解し、目指すべき姿を共有することを目的として2023年4月21日から25日にかけて神戸、西宮、篠山の3キャンパスで教職員向け説明会を実施しました。法人の4つの軸である「教育」「研究」「診療」「社会貢献」の各領域を担当する理事が説明を行いました。



病院の運営方針説明会を実施

2023年5月30日、2022年度の病院運営状況の振り返りや新型コロナウイルス感染症対応の総括、新病院建設の概要説明、2023年度の病院運営方針などについての説明会を実施し、阪上病院長から詳細な説明がありました。また併せて病院運営に大きく貢献した部門や病院職員を表彰するインセンティブ表彰を実施いたしました。

